

ちょっと便利なシェアサイクル

外出先で自転車などの移動手段を気軽に借りられるシェアサイクルの取り組みが広がっている。国土交通省の調査では、2024年3月末で全国407都市に導入されている。

県内でも桑名市や伊勢市など複数の自治体で導入されており、津市でも24年8月下旬から実証事業が行われている。津駅東口を出るとタクシー乗り場横の駐車場に、10台ほどの駐車枠と小型電動アシスト自転車が目に入る。官民連携のエリアプラットフォーム「大門・丸之内 未来のまちづくり」が実施するシェアサイクル実証事業で、2月25日まで実施される。

狙いは津駅や津新町駅などの交通拠点から一定の距離がある大門や丸之内など津市中心部へのアクセス性や街中観光スポットへの回遊性向上だ。津駅や津新町駅、津なぎさまちを最遠拠点としてエリア内に22カ所のサイクルポートと50台以上の自転車が配置されている。スマートフォンのアプリを通じて24時間いつでも利用でき、ポート間は乗り捨て自由なのが特徴で、県内のシェアサイクルスポットとして最多規模となる。

津市によると、利用開始後1カ月間の利用回数は約550回で、乗り降りとも津駅東口のポートが最も多い。利用時間は午後7～11時台や午後4～6時台が多く、1回20分程度の乗車が多いようである。

筆者もバスの本数が減った夜間に何度か丸之内から津駅東口まで利用してみた。シェアサイクルで移動すれば、次のバスを待っているよりも早く津駅東口へ到着することができ、料金も200円ほどと手軽で便利さに納得できた。

シェアサイクルは駅やバス停などの公共交通拠点から少し離れた目的地までをつなぐ街中インフラとして活用が進む。一方、事業継続の一番の課題は収益性の確保といわれており、利便性につながる利用エリアの充実と利用者の継続利用がポイントとなる。

省スペースで利用時の環境負荷が少ないなど、健康的でカーボンニュートラルな公共インフラとして、新たな地域交通の担い手の定着をぜひ期待したい。

(PPP/PFI事業部 主任研究員 安岡 優)